

第2回 伊勢市地域福祉計画推進委員会 結果概要

- 開催日時 令和4年3月24日(木) 午後1時30分～午後3時10分
- 開催場所 伊勢市役所本館3階 委員会室
- 出席委員 鵜沼憲晴委員、前島賢委員、立松浩明委員、大松真由美委員、
野間通代委員、加藤好美栄委員、前村裕司委員、嶋垣智之委員、
伊豆敏委員、江原博喜委員
- 欠席委員 小林初美委員、下郁雄委員、柴原淳子委員、秋山則子委員、
泰道詞子委員、籠谷芳行委員、藤本宏委員
- 事務局 伊勢市：健康福祉部大井戸次長、
健康福祉部小林参事(福祉生活相談センター長)、
健康福祉部岩佐参事(子育て応援課長)、健康課浦田課長
高齢・障がい福祉課奥野課長、保育課堀川課長、
福祉総務課辻村課長、市民交流課木村課長、
介護保険課浦井課長、福祉生活相談センター小川係長、
中村係長、服部係長、谷本、竹内
伊勢市社会福祉協議会：中森課長、奥野係長、竹澤係長、野中係長、
小山係長、橋爪係長
- 傍聴者 1名

1. 委員長あいさつ

2. 令和3年度の振り返り及び令和4年度の取組方針について

「地域福祉進捗管理シート」「地域福祉活動計画進捗管理シート」に沿って伊勢市及び伊勢市社会福祉協議会より説明。

【委員から主な質問等】

○委員

障がい者の就労体験について、農業の事業所等で9名取り組んだとの報告であったが、どのような内容に取り組んだのか。

○事務局

農業関係8名、教育関係1名。農業関係では、花の手入れ、果物の収穫など、教育関係は施設での清掃の体験を実施した。

○委員

子育て支援センターでの講座の縮小について報告があったが、今後も、厳しい状況は続くと思われる。代わる手段を考えていただきたい。

○事務局

令和3年度は試験的に城田地区と宮本地区の2か所で移動子育て支援センターを実施した。結果を踏まえ、令和4年度の実施（地域・回数など）に反映させていく予定。なるべく市内全域に子育て支援世代が来ていただける機会を設けていきたい。

○委員

児童虐待の早期発見・対応においては、小中学校との更なる連携をしていただきたい。痣を見つけても先生では見極めが難しい。学校医に見分け方を聞いたりしてはいるが、悩むこともあるので、アドバイスをもらえるとありがたい。

○事務局

児童虐待防止推進月間に関係者向けの研修会を実施しているが、要望を聞き検討していきたい。

○委員

災害時支援者制度の具体的な進捗状況についてお聞きしたい。

○事務局

令和3年9月1日現在で「防災ささえあい名簿」登録者3147名、このうち個別避難計画作成が1143名。

○委員

ひきこもり事業について、居場所や家族交流会等の周知はどのような形で行っているのか。

○事務局

相談にみえた方に対しては居場所を案内している。広報いせ、社協ホームページに掲載し周知を図っている。

○委員

ひきこもりの方については、全国的に想定されている人数が出ているが、相談に見える方、居場所に来ている方の人数とのギャップについてはどのように考えているのか。

○事務局

把握している数字は、想定されている数字に比べるとかなり低い。いろいろな面でのアウトリーチ活動が必要と考えている。こういったアウトリーチができるのか現在検討中。

○委員

地域生活支援拠点の整備について、現時点で登録しているサービス事業所は数か所と聞いている。周知が行き届いていないように感じる。周知、理解促進に力を入れていただきたい。来年度どのように進めていくつもりか。

○事務局

ご指摘のとおり周知が行き渡っていない現状はあろうかと思われる。現在は各サービス事業所を回らせていただいている段階。障害者施策推進協議会においても委員に情報共有したり、サービス事業所の意見を伺い、来年度は本格的に進めていく。

○委員

コロナの影響で、講座の実習が中止になった報告があったが、今後も実習を伴う研修については中止せざるを得ないこともあるかもしれないが、どのように対応するのか確認したい。

○事務局

コロナの影響による延期となった実習については、年度をまたいでも時期の調整を行って実施する予定。体験を通じて自分にあった活動か判断してもらうものとして実習を位置づけており、延期とした実習についても時期をずらして、開催していきたいと考えている。

地域福祉活動の担い手養成においては、座学だけではなく、活動のイメージを持っていただくことが大切と考えている。研修の開催の仕方については、参加しやすい方法を検討していきたい。

○委員

地域資源の開拓の難しさ、地域活動を促していく難しさにはどのようなことがあるのか。

○事務局

・まちづくり活動の周知、活動を理解、その必要性をいかに伝えるかに難しさを感じている。

・人の心を動かすには根気がいる。何度も足を運び、関係をつくり、具体的な数値を示して説明し理解していただくよう努めている。

○委員

地域活動にも地域差がある。コロナで活動が止まっている地域もある。

○事務局

各地域包括支援センターには生活支援コーディネーター、社協にはコミュニティソーシャルワーカーがおり、地域の取り組みのお手伝いを担っている。協力しながら取り組みを進めたい。

○委員

誰もが経験したことの無いコロナ禍での地域福祉の推進であった。それぞれが模索しながら活動しているのがうかがえた。今後は、コロナをイレギュラーと捉えず、想定内のものとして対応が求められる。これまで蓄積した様々な工夫を活かし、少しずつでも進めていっていただきたい。

3. その他

(1) 委員の任期について事務局より説明。

令和4年3月末日で現在の任期が満了となる。4月に選出団体へ推薦依頼をお送りする予定。

(2) 来年度の会議開催について

令和4年度は第4期（次期）計画の策定に向けて協議いただくこともあるため3回開催できればと考えている。詳細決まり次第お知らせさせていただきます。